

令和3年度 授業改善推進プラン 教科名（数 学）

<p>学習状況と 課題分析</p>	<p>授業はまじめな態度で取り組み、前向きな姿勢で力を付けようという意欲をもつ生徒は多い。その一方、受け身な姿勢で授業に臨み、基礎的・基本的な知識の定着が今一步である生徒も一定数いる。</p> <p>また、新学習指導要領に対応した指導を心掛け、各領域ごとの課題として、代数領域においては、小学校で学習した計算技能が不十分な生徒に対しての基礎的・基本的な知識・技能の習得が課題である。解析領域においては、学習した内容を道具的理解に留まり、関係的理解にまで至ることができない生徒が多数見受けられることが課題である。幾何領域においては、学んだ定義や定理を体系的な知識として獲得できていない生徒に対し、知識を相互に関係付けられるような指導の工夫を行うことが課題である。</p>	
<p>授業改善に向けての取組</p>	<p>基礎基本の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 要点を明確にする授業展開の工夫・改善を図る。 ○ 問題演習時間を確保する。 ○ リピート学習（問題集）を効果的に使用する。 ○ 基礎・基本の習得が不十分な生徒に対し、授業時間外の時間などで個別に支援を行っていく。
	<p>主体的・体験的な学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の興味や関心を促すため、各単元導入時などで ICT 機器の効果的活用を図る。 ○ 一人一人の考えを大事にしながら短い時間で集中的に意見交換するなどし言語活動を充実させ、数学的思考力の育成を図る。 ○ 証明場面などで表現上の違いや問題点を指摘し合う批評・改善の意見交換の場面設定を意図的に取り入れることで批判的思考力の育成を図る。 <p>*今年度の重点項目： 新学習指導要領施行に伴い、「データの活用」領域において、四分位範囲、箱ひげ図などの学習内容を知識のみならず将来実生活に活かせるよう工夫して指導を行う。具体的には、「統計教育の充実」をテーマにアクティブ・ラーニングを意識した授業展開ができるような教材の開発と実践を行う。</p>
	<p>個に応じた指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数学科内担当教員の意思の疎通を深め、本校生徒に合う少人数指導の形態について基本的な形を固め、習熟の程度を考慮した指導形態を工夫する。 ○ Chromebook 対応の課題を考えていく。
	<p>評価について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数学力のより公正な評価をめざし、易きに流れることなく、評価の明確化を一層進めていく。数学的な見方・考え方の観点の評価方法の工夫改善を図る。 ○ 新観点の評価方法や評定を付ける際のより透明性のある評定を目指し、一層の工夫・改善を図る。

